

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	美術B		
英文授業科目名	Arts B		
開講年度	2006年度	開講年次	1、2年次
開講学期	2、4学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	貫井 一美		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ

<p>【主題および達成目標】</p> <p>(a) 主題：</p> <p>18世紀から20世紀までの西洋美術（主として絵画）の流れを概観することを目的とする。西洋の歴史、社会、思想を美術作品を通して学んでいく。同時に美術作品を通して各時代の、各社会が持っていたであろう「美」に対する基準や考え方についても考えたい。作品名、画家名、制作年を暗記するような内容ではなく、美術作品が内包する人間の多様な考え方、時代全体を知ることを目的とする。</p> <p>(b) 達成目標：</p> <p>美術作品を様々な角度から客観的に観察し、自らの「眼」で観ることを身に付ける</p>

電気通信大学 平成18年度シラバス

【前もって履修しておくべき科目】

なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

西洋史

【教科書等】

特に教科書はない。授業中に必要に応じて資料コピーを配布。

美術史の基本参考文献は授業内に提示する。

【授業内容とその進め方】

(a) 授業内容

第1回：美術史とはどういうことを学ぶものであるかを概説。

第2-3回：18世紀の絵画

第4-6回：新古典主義、ロマン主義、写実主義の絵画

第7-8回：印象派の絵画

第9-11回：印象派以降

第12回：19世紀末の美術

第13-15回：20世紀の美術

(b) 授業の進め方：講義とスライド

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法：期末試験

(b) 評価基準：美術作品について客観的視点から自分の言葉で考え論じることができる。

【オフィスアワー：授業相談】

毎回授業後に適宜相談に応じるが、質問内容が時間を要する場合には前もってアポイントを取ること。

【学生へのメッセージ】

できるだけ美術館や展覧会へ足を運び、実際に作品を観てほしい。

【その他】